

乗用草刈機

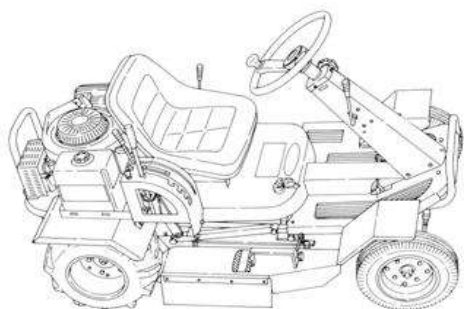
マメトラパワフルモアー

MPM-850・MPM-950・MPM-1350

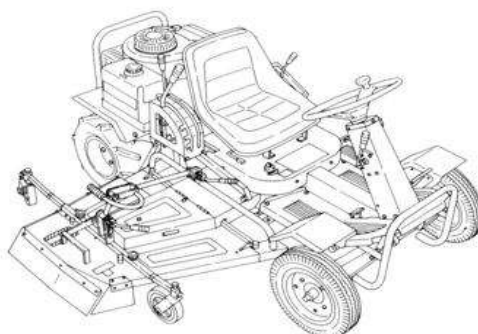
★取扱説明書★



当製品を安全に、また正しくお使いいただく
ために必ず本取扱説明書をお読みください。
お読みになった後も必ず保存してください。



PM-850
MPM-950



MPM-1350



マメトラ農機株式会社

目 次

はじめに	i
サービスと保証について	ii
目 次	1
1 安全作業のための心得	2
2 安全マーク貼り付け位置	4
3 各部の名称と機能	6
4 作業前の注意	8
5 操作方法	9
1. エンジンの始動方法	9
2. エンジンの始動方法(リコイルスタータ方式)	9
3. エンジンの停止	10
4. 緊急時の停止装置	10
5. 座席の移動	11
6. ハンドル高さ調節	11
7. 運 転	11
6 作業方法	12
1. 圃場条件の確認	12
2. 周囲の安全	12
3. 草刈作業	13
(1) MPM-850,MPM-950の場合	13
(2) MPM-1350の場合	15
4. トラックへの積降し方法	17
7 作業後の点検・整備	18
1. シート台内部の掃除	19
2. ベルトカバーの掃除	19
3. エンジンオイルの交換	19
4. ミッションオイルの交換	20
5. 注 油	21
6. グリス	21
7. エアークリーナの手入れ	21
8. バッテリーの点検	22
8 主要部の調整	24
1. 走行ベルトの調整	24
2. 刈刃クラッチのベルト調整	24
3. ベルトの交換要領	25
4. 刈刃の交換要領	25
5. クラッチの調整	26
6. 走行ブレーキの調整	26
9 格納のしかた	27
10 特 長	28
11 仕 様	29
• エンジン	30
• 安全説明確認カード	30

1 安全作業のための心得



1. 過労・病気・薬物の影響・その他の理由で、正常な運転操作ができないと思われる場合は機械作業に従事しないでください。
2. 適正な帽子・防護メガネ・作業衣を使用し、衣服の一部や頭髮・手拭きが巻き込まれないようにしてください。
3. 作業前には常に正常な機能が発揮できるように各部の点検整備に心掛けてください。また、作業後にも、次の作業のために点検整備を実施してください。
4. エンジンを始動させる場合は、チェンジレバーを中立にしてから、クラッチペダルをいっぱい踏み込み、キースイッチをSTART（始動）方向に回してください。
5. 足元に充分注意し、カバーの内側へ足等を入れないようにしてください。
6. 移動発進する時は、必ず刃の回転は止めてください。変速は1速から順次おこない、急発進はしないでください。
7. 作業中は機械の周囲に注意し、作業関係者以外の者を機械に近寄らせないでください。特に、子供やペットには注意が必要です。
8. バック作業時には後方に注意してください。また、棚下作業や枝下作業の際は、頭上に注意してヘルメットの着用をしてください。



9. 燃料を給油する場合はエンジンを停止し、マフラーが冷えてから、こぼさないようにおこなってください。こぼしたらきれいにふき取ってください。
火気は厳禁のこと。



10. マフラーは非常に高温になりますので、絶対に触れないでください。
また、機械におおいをかける場合は、高温部が冷却した後でおこなってください。
11. 傾斜地、畦畔の横断、軟弱地の通過及び旋回時には転倒に注意してください。
傾斜地は15度以上は危険ですから、無理な作業はやらないでください。
12. 補助ローターを上げたままでの作業は危険ですからしないでください。
(MPM-1350)
13. 機械の点検整備や、草の巻付けの除去の際は、必ずエンジンを止めてからおこなってください。
14. 機械を他人に貸すときは取扱方法をよく説明し使用前に「取扱説明書」を必ず読むように指導してください。
15. この草刈機は一般道路の通行は禁止されております。

2 安全マーク貼り付け位置

●警告ラベルが汚損したり、はがれた場合はお買い上げの販売店に注文し、新しいラベルに取り替えてください。

安全停止機構

刈取クラッチレバーが 入 の状態でシートから離れると、エンジンが自動的に止まります。
《注意》通常のエンジン停止はキースイッチで行って下さい。

操作上の注意

注意

キースイッチ	刈草はクラッチペダルを踏み込んでキーを押して下さい。安全のためペダルを踏み込まないと始動できません。エンジン冷却時はキーを引いて始動して下さい。5秒以上連続してセルモーターを回さないで下さい。クラッチをつなぐ際は慎重に行なって下さい。クラッチペダルを踏み込むとブレーキが掛かります。
クラッチ・ブレーキ	クラッチペダルはクラッチペダルを踏み込んでフックをあげて下さい。もう一度踏み込むと故障があります。
足踏ブレーキ	足踏ブレーキはクラッチペダルを踏み込んでフックをあげて下さい。もう一度踏み込むと故障があります。
アシッドレバー	刈草の刈り込みが浅い場合はアシッドレバーを操作して刈草の高さを調整して下さい。通常は調整しないで下さい。
エンジンブレーキ	安全はクラッチペダルを踏み込んでエンジンが止まるように調整して下さい。刈草の刈り込みが浅い場合はエンジンブレーキを調整して下さい。
刈取クラッチレバー	刈草の刈り込みが浅い場合は刈取クラッチレバーを操作して刈草の高さを調整して下さい。通常は調整しないで下さい。
刈取クラッチレバー	刈草の高さを決めてから操作して下さい。刈草の高さをいっぺんに上げると自動的にクラッチが掛かります。
刈草調整レバー	刈草の高さを調整して下さい。調整が済むと右側のレバーが動くまで調整して下さい。
燃料タンク	外にはささないように、調整して下さい。これは燃料料は、絶対にふみ取らないで下さい。
バッテリー	特に注目の事項は必ず確認して下さい。詳しくはマニュアルを必ずお読み下さい。
エンジンオイルエレメント	オイル交換の時に一緒に交換して下さい。
トランスミッションオイル	5秒間隔に交換して下さい。

注意

リコイルスタータで始動の際はチェンジレバーを必ずニュートラルの位置にして下さい。

8MA,0506,000

137,0921,000

8MA,0503,000

機体情報の種類	機体番号
型式名	MPM-950
区分	
エンジンの型式	294-777
機体番号	051001

製造販売元 ママトラ農機株式会社

8MA,0502,000
8MA,0511,000
8MA,0513,000

警告

刈草の刈り込みが浅い場合はアシッドレバーを操作して刈草の高さを調整して下さい。通常は調整しないで下さい。

8MA,0001,000

注意

乗降時足乗せ厳禁

機体左側のステップを使用のこと

8MA,0504,000

注意

乗降時足乗せ厳禁

機体左側のステップを使用のこと

8MA,0504,000

注意

排出口

- 作業中はこのカバー付近に近寄らないこと。
- カバーの開閉は刈り刃を停止してから行うこと。

8MA,0508,000

注意

カバーの取り付け、取り外しは、必ずエンジンを停止して行うこと。

8MA,0518,000

足下危険

- 運転中はカバーの下に手や足を入れないこと。
- 刈り刃の点検や交換はエンジンを止めて行うこと。

8MA,0517,000

MPM-950



▲ 注意

安全に作業をする為に次のことから必ず守って下さい

- 使用前に取扱説明書を必ず読んで、よく理解して下さい。
- 刈り方によって飛散する恐れのある小石や木片等の異物は作業前に取除いて下さい。
- 作業範囲内に人や動物を近づかせないで下さい。
- タレゴム、カバー等の防護装置を取り外したままで作業しないで下さい。
- 点検、整備や清掃、洗車の際には、必ずエンジンを停止して下さい。

8MA,0515,000

▲ 危険

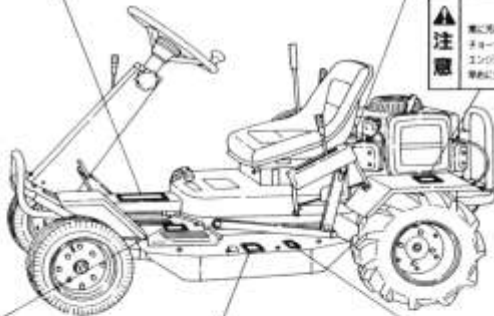
- バックリローは刃の方向を発生する方向に発生すること。
- バックリローは刃が回転して刃の向きに注意すること。
- バックリローは刃が回転して刃の向きに注意すること。
- バックリローは刃が回転して刃の向きに注意すること。
- バックリローは刃が回転して刃の向きに注意すること。

8MA,0519,000

▲ 注意

エアークリーナーの取り扱い
常に刃を点検してください。エレメントが破損すると
スロークリーナーになり刃が鋭くなるため、パワーが弱くなり
エンジントラブルの原因になりますので、刃が鋭くなるから
早く交換してください。

8MA,0505,000



ステップ

8MA,0509,000

▲ 足下危険

- 運転中はカバーの下に手や足を入れないこと。
- 刈り刃の交換や交換はエンジンを止めて行うこと。

8MA,0517,000

▲ 注意

乗降時足乗せ厳禁

機体左側のステップを使用のこと

8MA,0504,000

ガソリン ▲ 危険

火気厳禁

燃料は必ずエンジン
を停止して下さい。

火気厳禁
ガソリンは可燃物です。

8MA,0003,001



▲ 注意

- 作業前にベルトカバー内を必ず清掃して下さい。
- 作業時は補助ケーシングを清掃しないよう注意して下さい。
- 作業時は本体側のカバーを固定して下さい。
- 作業時は補助ケーシングを持ちかたんで下さい。

8MA,0512,000

▲ 注意

カバーの取り付け、取り外しは、必ずエンジンを停止して行うこと。

8MA,0518,000

▲ 危険

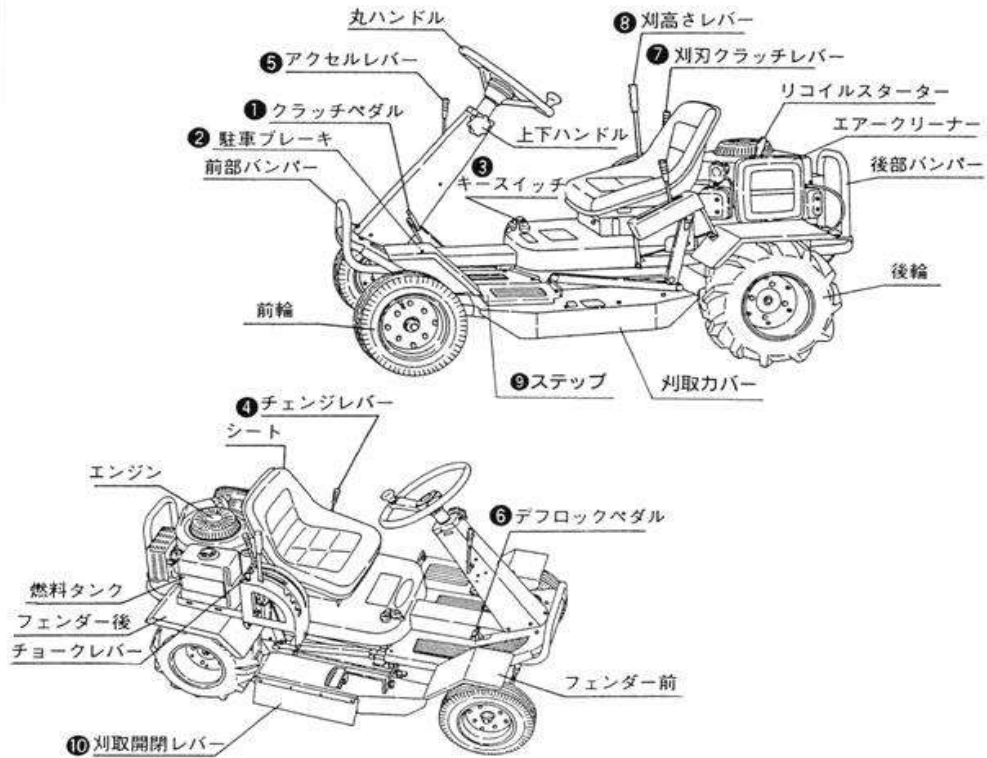
補助ローラーを上げたままで作業はしないこと。

8MA,0520,000

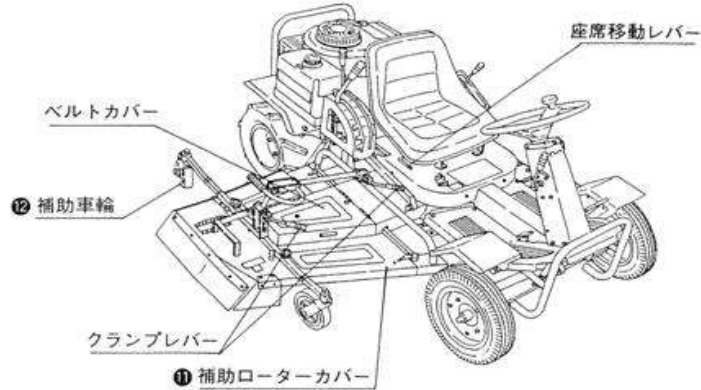
MPM-1350

3 各部の名称と機能

MPM-850・MPM-950



MPM-1350



①クラッチペダル

左側のペダルを踏みみますと走行クラッチが切れ、更にいっぱい踏みみますとブレーキがかかります。

②駐車ブレーキ

左側のペダルをいっぱい、踏み込みフックをかけてください。駐車ブレーキとなります。解除はブレーキペダルをもう一度踏みみますとフックが外れます。

③キースイッチ

座席右前下方にあり、時計方向に回します。左がOFF（停止）、次がON（運転）、右がSTART（始動）です。始動したら手を離しますとON（運転）位置へ戻ります。

④チェンジレバー

●チェンジは前より走行3、2、1速、R速（後進）の順になっております。変速はクラッチペダルを踏み1段ずつ順序よくおこないペダルはゆっくり離してください。

⑤アクセルレバー

アクセルレバーを手前に引きますとエンジンの回転が上がリ、レバーを戻しますと回転は下がります。

⑥デフロックペダル

- 1 右側のペダルを踏みみますとデフロック状態となります。離しますとデフに戻ります。
- 2 やわらかい圃場や凸凹の多い圃場で片輪がスリップして脱出できない時に使用します。

⑦刈刃クラッチレバー

- 1 前に倒しますと刈刃クラッチ「入」となり、元に戻しますとクラッチ「切」となります。
- 2 刈刃クラッチは刈高さレバーが「走行」位置では入りません。

⑧刈高さレバー

- 1 刈高さの調節をおこない一番上が「走行」で1～3段の調節ができます。
- 2 刈高さは「3」の位置で地上高10mm以上になるように調節ボルトを固定してください。
- 3 刈高さが低いと土を削るようになり、飛び石が多く刈刃の破損や摩耗ベルトの摩耗や早期切断となり機械の損傷も早くなります。

⑨ステップ

機械へ乗り降りの際使用する。

⑩刈取り開閉カバー

草の量に合わせて調節します。通常は下げたまま使用してください。

⑪補助ローター、補助カバー（MPM-1350）

- 樹の根元や廻り、枝下作業ができるよう右側に補助ローターを設け、偏心500mm、作業幅1350mmと広がっています。
- 補助ローターの折りたたみは、2ヶ所のクランプレバーを緩め取手をいっぱい持ち上げてからクランプレバーを締めてください。
- 補助ローターを上げたままでの作業はしないでください。

⑫補助車輪（MPM-1350）

補助車輪の前後の位置はノブの締め付けで行えます。草の排出状態に合わせて車輪位置を調節してください。

4 作業前の注意

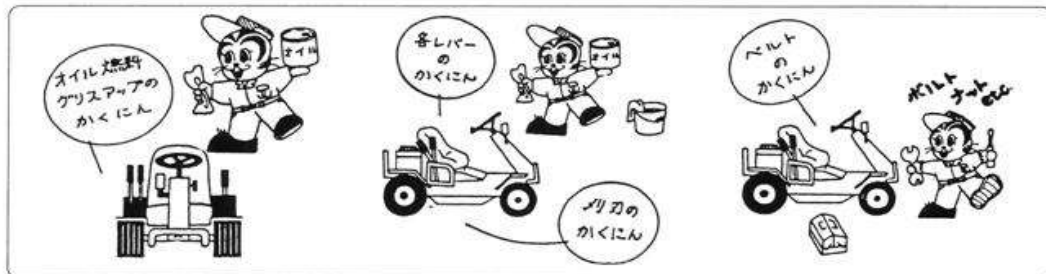
作業前には必ず次の点検をおこなってください。

⚠ 危険

- 燃料補給時は、くわえタバコや裸火照明を絶対にしないでください。火災を起す危険があります。

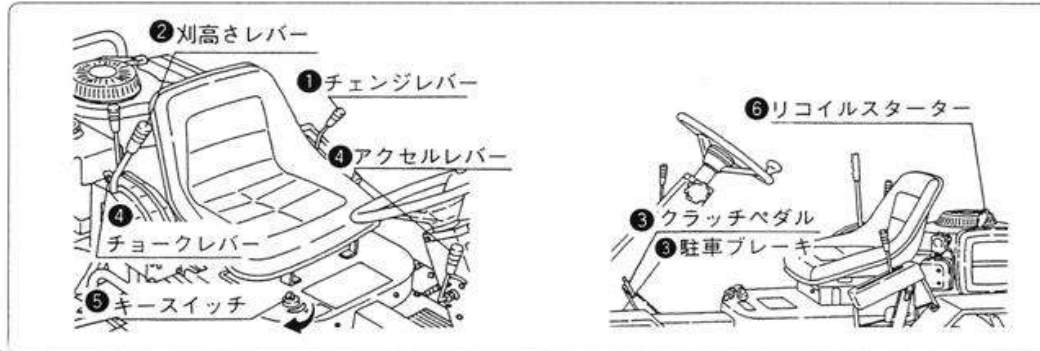
⚠ 警告

- 点検・整備を行うときは、必ずエンジンを停止させ、過熱部分が冷めてから行ってください。
- エンジンが熱い間は、注油・給油は絶対にしないでください。やけどや火災の恐れがあります。
- 燃料を補給したあとは、燃料キャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいに拭きとってください。
- エンジンオイルは入っておりません。オイルの入れ方は（19頁・20頁のエンジンオイルの交換）参照。
- 梱包及び輸送の関係でバッテリーに液が入っておりません。開梱したら付属のバッテリー液をバッテリーに注入してください。（22頁バッテリーの点検）参照。
- ミッションオイル燃料の点検、補給をおこなってください。
- 各作動部へ注入やグリスアップをし、各部が正しく作動する事を確認してください。
- チェンジレバー、刈刃クラッチレバーアクセルレバー、チョークレバー等の各レバーが正しく作動する事を確認してください。
- ベルトの摩耗や損傷がないか確認してください。
- 各部のボルト、ナット類のゆるみ、脱落の有無を点検し、10～20時間で各部の増締めをしてください。
- 刈刃（ナイフ）の点検、刃のこぼれ、摩耗に注意し早めに交換してください。



5 操作方法

図-1



注 意：廻りの安全を確認してください。排気ガスのたまりやすい所では換気に注意してください。

☆エンジン関係の詳細は30頁を参照してください。

1. エンジンの始動方法（図-1）

- ①チェンジレバーを中立（N）の位置にします。
- ②刈高さレバーを走行の位置にします。
- ③クラッチペダルをいっぱい踏みブレーキが効いている状態にします。
- ④寒い時はチョークレバーを引き、アクセルレバーを中間位まで引きます。
- ⑤キースイッチを時計方向に回し、ON（運転）、START（始動）位置へ回し、始動したら手を離しますとON（運転）位置へ戻ります。

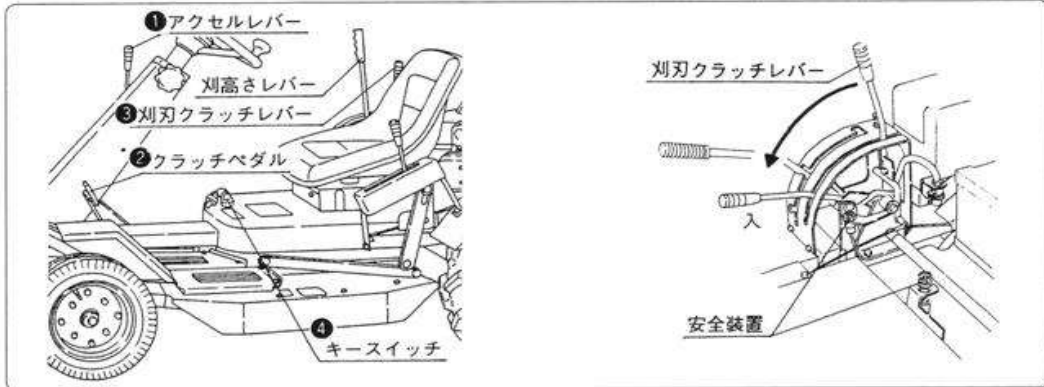
2. エンジンの始動方法〔リコイルスタータ〕（図-1）

キースイッチをSTART（始動）位置へ回しても、セルモータを回すだけのバッテリー容量がない場合に使用します。

- ①チェンジレバーを中立（N）の位置にします。
- ②刈高さレバーを走行の位置にします。
- ③駐車ブレーキをセットします。
- ④寒い時はチョークレバーを引き、アクセルレバーは中間位まで引きます。
- ⑤キースイッチをON（運転）位置にします。
- ⑥リコイルスタータをいきおいよく引っ張ってください。

5 操作方法

図-2



3. エンジンの停止 (図-2)



警告：刈刃クラッチを切っても刈刃は惰性で回転しています。刈刃停止を確認して降りてください。

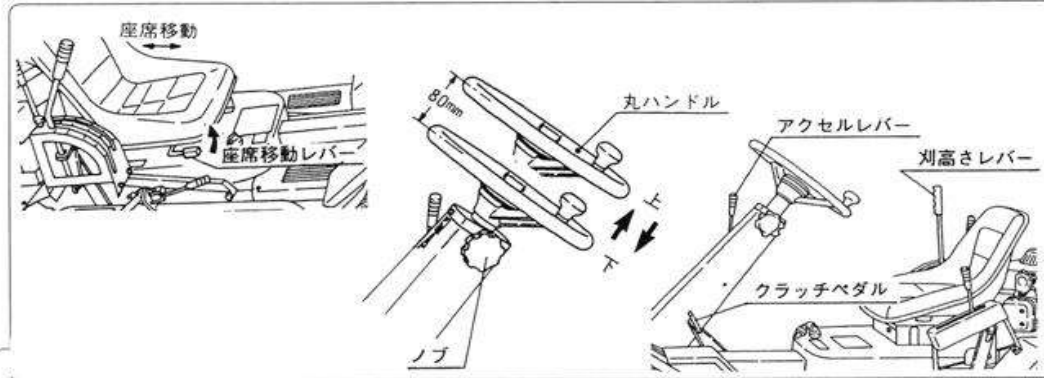
- ① アクセルレバーを戻し、エンジン回転を下げます。
- ② クラッチペダルを踏込み、駐車ブレーキを掛けます。
- ③ 刈刃クラッチを切り、刈高さレバーを走行位置にします。
- ④ キースイッチを左へ回してOFF（停止）位置にすると停止できます。

4. 緊急時の停止装置 (図-2)

刈刃クラッチ「入」の状態ですと、座席を離れますと、エンジンが停止する安全装置が付いております。

エンジン停止後は必ずキースイッチをOFF（停止）位置にして下さい。

図-3



5. 座席の移動 (図-3)

運転者にあわせて座席の移動ができます。座席の下部のレバーを上を持ち上げ、適正な位置へ座席を移動してレバーを離してください。

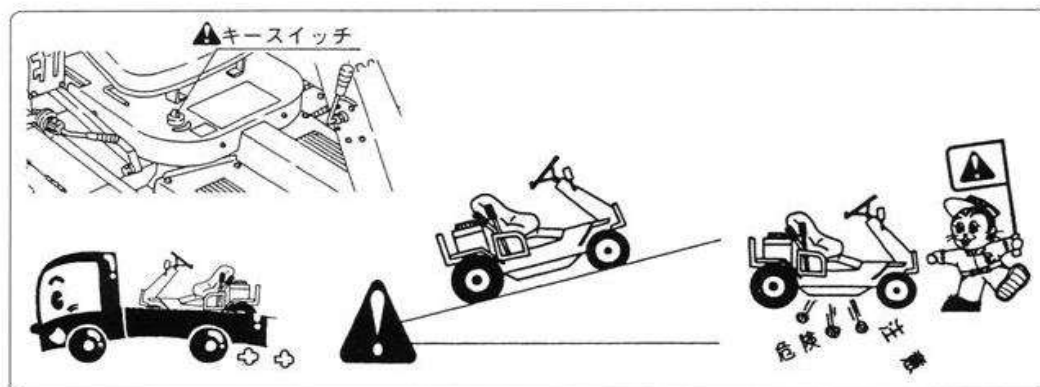
6. ハンドル高さ調節 (図-3)

運転者にあわせてハンドルをあわせる事ができ、常に楽な姿勢で運転ができるようになっています。高さの調節はノブの締付けによりできます。

7. 運 転 (図-3)

発進時は1速から順次2、3速走行へ移動してください、尚、アクセルレバーも中間位より発進し、クラッチペダルもゆっくり離して安全運転に心掛けてください。

6 作業方法



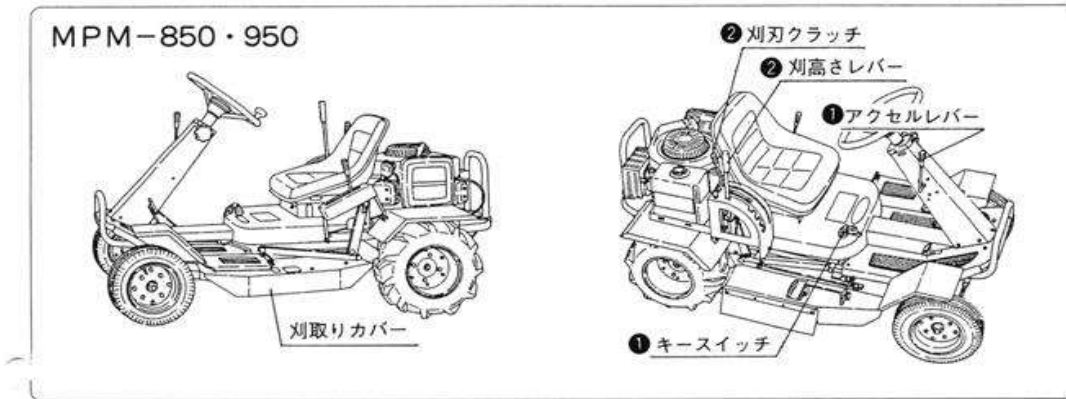
注 意：本機は乗用型草刈機です。周囲の安全を確認して作業をおこなってください。機械を離れる時、または使わない時はキーを外してください。

1. 圃場条件の確認

- ①圃場内の空き缶、石、ビニール、針金、切株等は全て取除いてください。
- ②圃場及び条件の悪い所（地面のでこぼこ、ぬかるみ、大きなくぼみ、枝下の低い所等）の確認をし、危険と思われる場所には目印を置き、誤って接近しないようにしてください。
- ③傾斜地においては最大15度までとし、それ以上は危険です。無理な作業はおこなわないでください。

2. 周囲の安全

- ①圃場近くの人や作物、建物、車、自転車等への飛び石等の被害が出ないように十分な注意を払ってください。
- ②作業範囲内に人（子供）等が入り込まないように注意して安全を確保してください。



3. 草刈作業（図-4）



警告

- ・カバー類は全て取付けた状態で作業してください。
- ・運転中は回転部（ベルト、プーリー、刈刃）に不用意に手足を近づけると巻き込まれたり、手足の切断等の大けがになる事もありますので、近づけないでください。
- ・点検整備や回転部からみついた草等を取除く時は必ずエンジンは停止してください。
- ・傾斜地作業は危険です。作業速度も低くおさえて、決して無理な作業は、しないでください。本機は15度以下で使用してください。
- ・雨降りの時や地盤のゆるい所では、スリップしやすくなりますので注意してください。

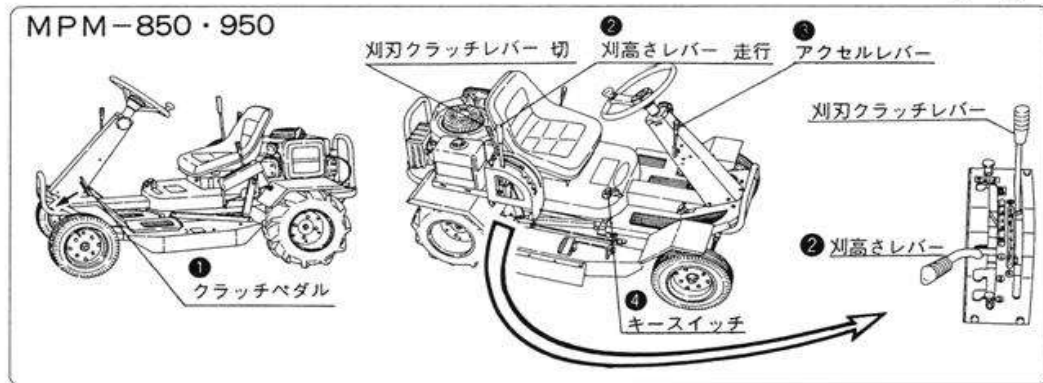
（1）MPM-850, 950の場合

1）作業方法

- ① エンジンを始動し、アクセルレバーは中間位まで引きます。
- ② 刈高さレバー位置は「2」で刈刃クラッチを静かに入れてください。刈刃クラッチを急いで入れますとベルトの損傷を早めます。
- ③ 変速は1速で作業を初め、周囲の安全を確認して徐々に機械や運転者の能力にあった運転をおこなってください。決して最初から無理な運転はしないでください。

6 作業方法

図-5

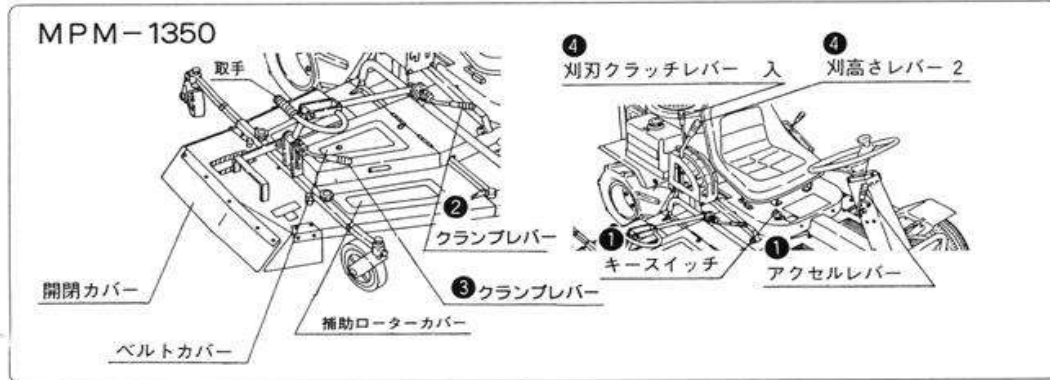


2) 停止方法 (図-5)

- ①クラッチペダルをいっぱい踏み込んでください。
- ②刈高さレバーを走行位置へ戻してください。刈刃クラッチも同時に切れます。
- ③アクセルレバーを戻してください。
- ④キースイッチをOFF (停止) 位置にしてください。

上手にお使い頂く為の注意

- 草の量や条件にあわせて刈高さ及び速度を選定してください。作業中はエンジンの回転を一定に保つようにしますと作業がきれいにできます。
- エンストが多いとエンジンにも悪い影響があり、また、ベルトの摩耗やベルトの切断になりますので注意してください。



警告

- ・カバー類は全て取付けた状態で作業してください。
- ・運転中は回転部（ベルト、プーリー、刈刃）に不用意に手足を近づけると巻き込まれたり、手足の切断等の大けがになる事もありますので、近づけないでください。
- ・補助ローターを上げたままでの作業はしないでください。
- ・点検整備や回転部からみついた草等を取除く時は必ずエンジンは停止してください。
- ・傾斜地作業は危険です。作業速度も低くおさえて、決して無理な作業は、しないでください。本機は15度以下で使用してください。
- ・雨降りの時や地盤のゆるい所では、スリップしやすくなりますので注意してください。

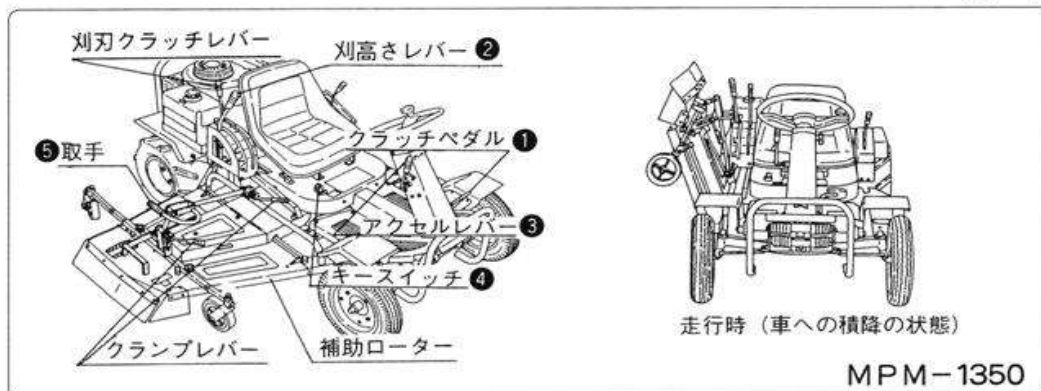
(2) MPM-1350の場合 (図-6)

1) 作業方法

- ① エンジンを始動し、アクセルレバーは中間位まで引きます。
- ② 取手を持ち2ヶ所のクランプレバーを緩め補助ローターを下げてください。
- ③ 補助ローターを下げたら②のクランプレバーは締め付けてください。③のクランプレバーは締め付けしないでください。圃場の凸凹にそって作業ができます。
- ④ 作業時に②のクランプレバーを締め付けないと、補助ローター用のVベルトがたるみ作業に支障をきたす事もありますので注意してください。

6 作業方法

図-7



- ⑤ 刈高さレバー位置は「2」で刈刃クラッチを静かに入れてください。刈刃クラッチを急いで入れますとベルトの損傷を早めます。
- ⑥ 変速は1速で作業を初め、周囲の安全を確認して徐々に機械や運転者の能力にあった運転をおこなってください。決して最初から無理な運転はしないでください。

2) 停止方法 (図-7)

- ① クラッチペダルをいっぱい踏み込んでください。
- ② 刈高さレバーを走行位置へ戻してください。刈刃クラッチも同時に切れます。
- ③ アクセルレバーを戻してください。
- ④ キースイッチをOFF (停止) 位置にしてください。
- ⑤ 取手を持ち補助ローター部をいっぱい持ち上げて2ヶ所のクランプレバーを締付けてください。(走行時姿勢)

上手にお使い頂く為の注意

- 草の量や条件にあわせて刈高さ及び速度を選定してください。作業中はエンジンの回転を一定に保つようにしますと作業がきれいにできます。
- エンストが多いとエンジンにも悪い影響があり、また、ベルトの摩耗やベルトの切断になりますので注意してください。

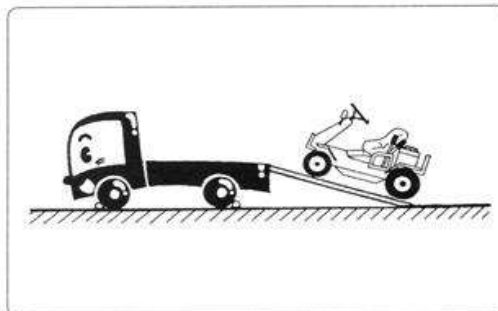
4. トラックへの積降し方法

- ①平坦で安全な場所を選び、トラックは動かないようにエンジンを止めギヤを入れ、サイドブレーキを引き、車止めをしてください。
- ②あゆみ（ブリッジ）板は長くて丈夫なものを使用し、荷台に確実に固定してください。
- ③積込みの際は、エンジン回転は絞り、ゆっくり前進で積込んでください。
- ④機体は荷台にロープで確実に固定します。
- ⑤機体にロープを掛ける時は、前部バンパー・後部バンパーを確実に固定してください。
- ⑥積降しは、後進でゆっくり降してください。



注 意

- ①ロープを掛ける時、変速レバーや樹脂などの小物部品にロープが触れない様に気をつけてください。
- ②あゆみ板は丈夫ですべり止めのあるものを使用してください。
- ③ロープを掛け終わったら、レバーは低速にして駐車ブレーキをセットしてください。



7 作業後の点検・整備

安全のため、そして故障を未然に防ぐため、機械を定期的に点検する必要があります。
一般的な使用条件下での点検・整備の項目と時期は下表の通りです。

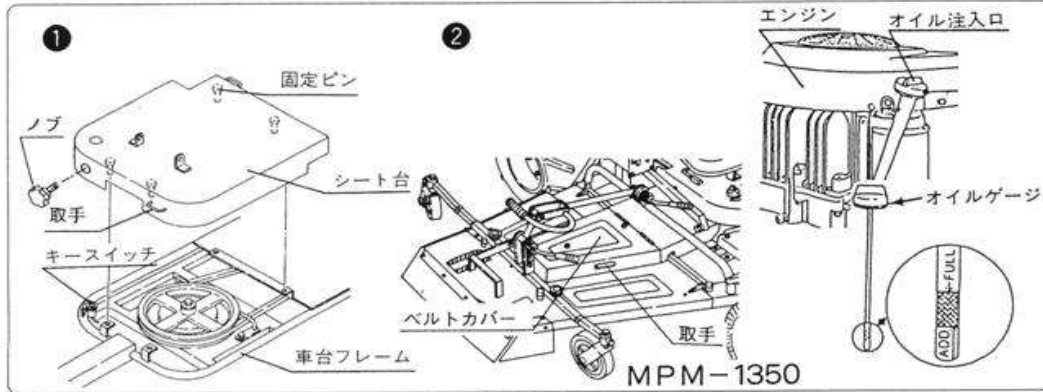
点検整備表

点 検 整 備 項 目	点 検 整 備 時 期			参 照 ペ ー ジ
	作 業 時 毎	25 時 間 毎	50 時 間 毎	
エンジンオイル点検、補給	○			19ページ
ボルトナット類のゆるみ、脱落の有無の点検	○			
刈刃（ナイフ）のこぼれ、摩耗の点検	○			25ページ
レバー類（チェンジレバー、刈刃クラッチレバー、アクセルレバー、チョークレバー）作動点検	○			
ベルトの張り具合、摩耗、損傷の点検		○		24ページ
シート台内部清掃	○			19ページ
ベルトカバー内清掃	○			19ページ
エンジンオイル交換 ※2			○	19ページ
ミッションオイル交換			○	20ページ
各作動部分へ注油及びグリスアップ		○		21ページ
エアクリーナーの清掃 ※1		○		21ページ
バッテリー液面点検		○		22ページ

※1) エンジンオイル交換は初回のみ5時間運転後におこなってください。

※2) エアクリーナーエレメントの清掃は頻繁におこなってください。

図-8



1. シート台内部の清掃（図-8）

- ①ノブを緩めて外してください。
- ②シート台前後の取手を握り持ち上げてください。シート台が外せます。
- ③シート台内部のゴミを清掃してください。
- ④取付けはシート台を車台フレームのパイプにあわせると、固定ピンと4ヶ所のピン穴があいませから押し込んでください。
- ⑤ノブを確実に締付けてください。

2. ベルトカバー内の清掃〔MPM-1350〕（図-8）

- ①ベルトカバーの前後の取手を握り持ち上げてください。ベルトカバーが外せます。
- ②カバー内のゴミを清掃してください。
- ③取付けは固定ピン2ヶ所をピン穴にあわせながら押し込んでください。

3. エンジンオイルの交換（図-8・9）

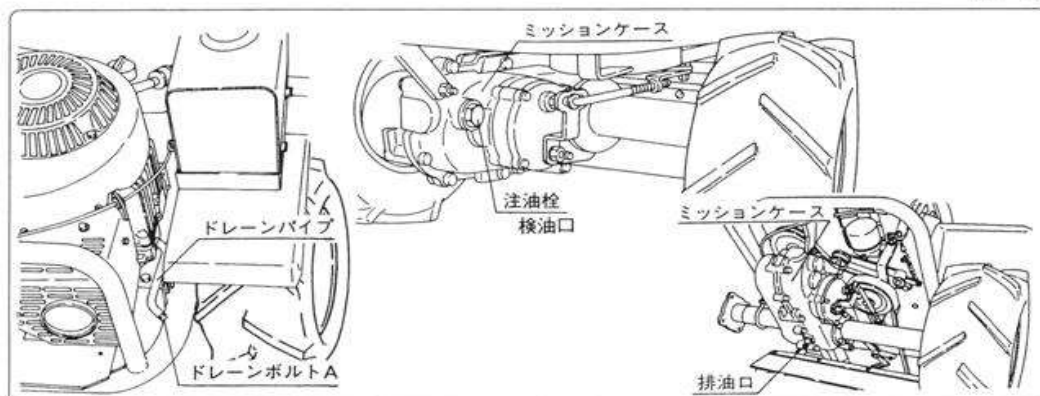


注 意：排出されるオイルで火傷をしないよう注意してください。

- エンジンオイルを残さないようにする為、左右の前輪の下に5～7 cm位の板などを敷いて後方を低くしてください。
 - エンジンが暖まっている時に抜きますと容易にできます。
- ①オイルゲージを取り外してください。

7 作業後の点検・整備

図-9

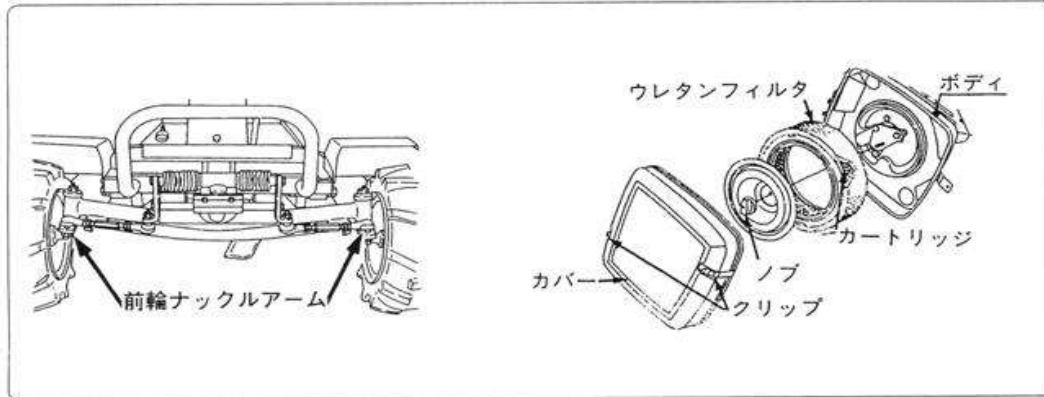


- ②ドレーンパイプの先端ボルト（ドレーンボルトA）を外してオイルを抜いてください。
- ③ドレーンボルトを確実に締付けてください。
- ④注油口より新しいエンジンオイルを規定量注入してください。
（規定量 1.7ℓ）
- ⑤オイルゲージを取付けてください。
- ⑥使用オイルはSC級 SD級 SE級の良質の新しいオイルを使用してください。
夏期……SAE-30 SAE10W-30 SAE10W-40
冬期……SAE-20 SAE10W-30

4. ミッションオイルの交換（図-9）

- ミッションオイル注油の際は、左右の後輪の下に5～7 cm位の板などを敷いて前方を低くしてください。
 - ミッションオイルが暖まっている時に抜きますと容易にできます。
- ①注油栓を外してください。
 - ②ミッションケース下部の排油口ボルトを外してオイルを抜いてください。
 - ③排油口ボルトを確実に締付けてください。
 - ④注油口より新しいギヤーオイルSAE#90を2.0ℓ入れてください。
 - ⑤注油栓を確実に締付けてください。
 - ⑥機体を水平に戻してください。検油口より半分位までオイルが入っているのが確認できます。これが適量です。
最初は10～20時間使用后、オイル交換をしてください。

図-10



5. 注油

- ①各作動部分には油差しで注油してください。
- ②各々のレバー類、軸受部、開閉カバーのリンク部分等。
- ③各々のワイヤーには注油口よりワイヤーを作動させながらおこなってください。
特に、露出部分には念入りにおこなってください。

6. グリス (図-10)

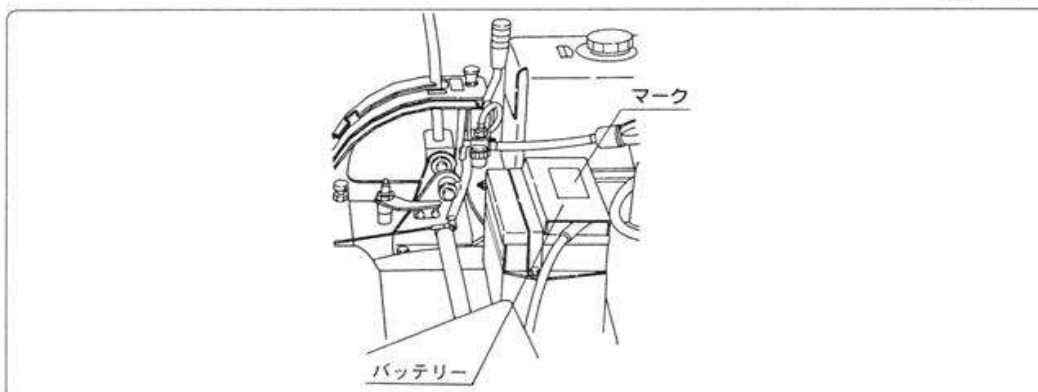
グリスニップルの箇所には、グリスポンプで補給してください。(前輪ナックルアーム等)

7. エアークリーナーの手入れ (図-10)

- ①両方のクリップを外し、カバーを取外します。
- ②カートリッジからウレタンを取外します。
- ③せっけん水で洗います。
- ④絞ってきれいな布で乾燥させます。
- ⑤エンジンオイルをしみ込ませます。きれいで吸引力のある布で包み、余分なオイルを拭き取ります。
- ⑥カートリッジに取付け、エアークリーナーカバーを正しくエアークリーナーボディにセットします。

7 作業後の点検・整備

図-11



8. バッテリーの点検（図-11）

作業後には、バッテリー液がバッテリーケース液面レベルの上限と下限の間にあるか確認してください。

バッテリー液が少ない場合は、バッテリー補充液を補充してください。

寒冷地などの気温の低い地域またエンジンの始動がしにくくなったりしましたら、補充電をおこないます。また、本機を2週間以上運転しないとバッテリーが放電してセル始動ができない場合があります。このときにも、補充電をしてください。本機を長期間使用しないときは、最低1ヶ月に1回は補充電をおこなってください。バッテリーが長持ちします。またバッテリー液量も点検してください。

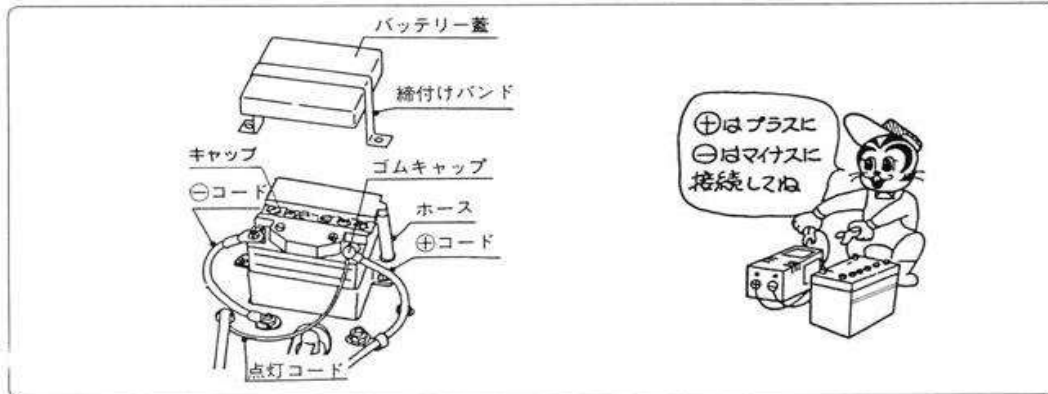
※バッテリー補充液はガソリンスタンド等で販売しています。



危険：バッテリー液をバッテリーケース液面レベルの上限を超えるほど入れますと使用中に液もれし本機を腐蝕させることがありますので、補給するときは液面レベル上限を超えないよう注意してください。

バッテリー液は希硫酸ですので身体や服に付けないようにしてください。もし身体や服に付いたときは、すぐに水洗してください。

図-12



1. バッテリーの取付け、取外しかた (図-12)

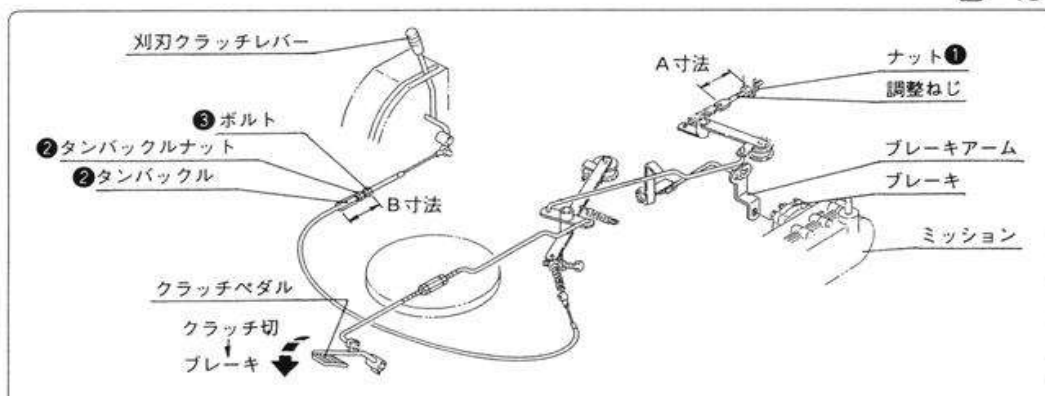
- ① 締付バンドを外してください。
- ② バッテリー蓋を外してください。
- ③ バッテリーの⊖側のコードを外してください。
- ④ バッテリーの⊕側ゴムキャップを外し、⊕コードを外してください。
- ⑤ バッテリーの取り外しをしてください。
- ⑥ バッテリー取付けの際は上記の逆の作業を確実にこなってください。

2. 補充電のしかた (図-12)

- ① バッテリーのキャップを全部外してください。
- ② バッテリー液が液面レベルの上限と下限の間にあるか確認して、少ない場合はバッテリー補充液を補充してください。
- ③ 急速充電は避けて普通充電をおこなってください。
- ④ バッテリーの⊕を充電器の⊕に接続してください。
- ⑤ バッテリーの⊖を充電器の⊖に接続してください。
- ⑥ 充電中はタバコ等の火気は近づけないでください。

8 主要部の調整

図-13



本機をトラックの荷台に乗せて、下から調整をしてください。

ベルトは初期延びが発生いたします。使用後10時間位でベルトの延びを調整してください。

1. 走行ベルトの調整 (図-13)

調整は①ナットを緩め、走行ベルト、調整ネジA寸法を短くしてください。ベルトが強く張れます。

2. 刈刃クラッチのベルト調整 (図-13)

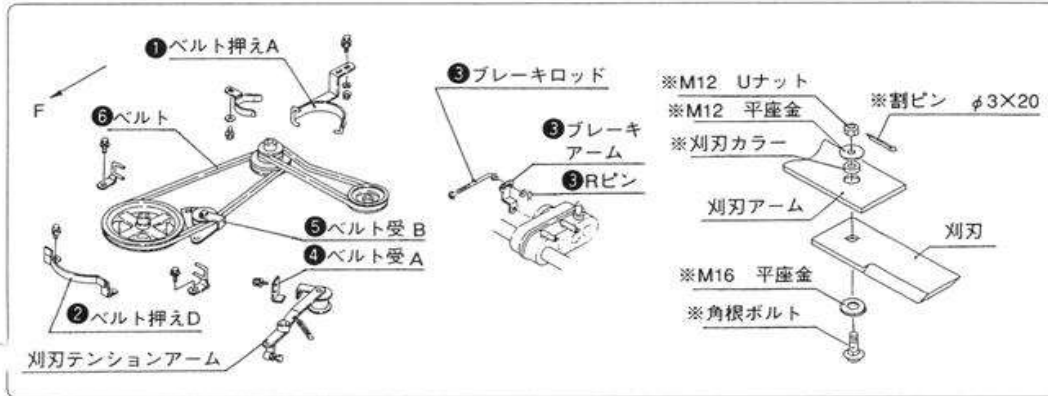
調整は②タンバックルナットを緩め③ボルト、B寸法を延ばしてください。ベルトが強く張れます。

3. ベルトの交換要領 (図-14)

- ①ベルト押えAを外してください。
- ②ベルト押えDを外してください。
- ③Rピンを抜いて、ブレーキロッドをブレーキアームより外してください。
- ④ベルト受けAを外してください。
- ⑤ベルト受けBを外してください。
- ⑥ベルトの交換をおこなってください。

ベルトの交換後、上記の逆の作業をおこなって、全てを締付けてください。

図-14



注意：草の切れ味が悪くなったり、刃のこぼれ、摩耗が多くなった時は刈刃（ナイフ）の交換を早めに行ってください。
 Uナットの取外しや締付けの際は出来る限り、メガレンチを使用してください。スパナを使用しますと、スパナが外れて刈刃で負傷することもありますので注意してください。

4. 刈刃の交換要領（図-14）

刈刃クラッチレバーを「切」位置にしますと、刈刃にブレーキが掛り回転しません。刈刃クラッチを中間ぐらいまで下げますと手で廻すことができます。

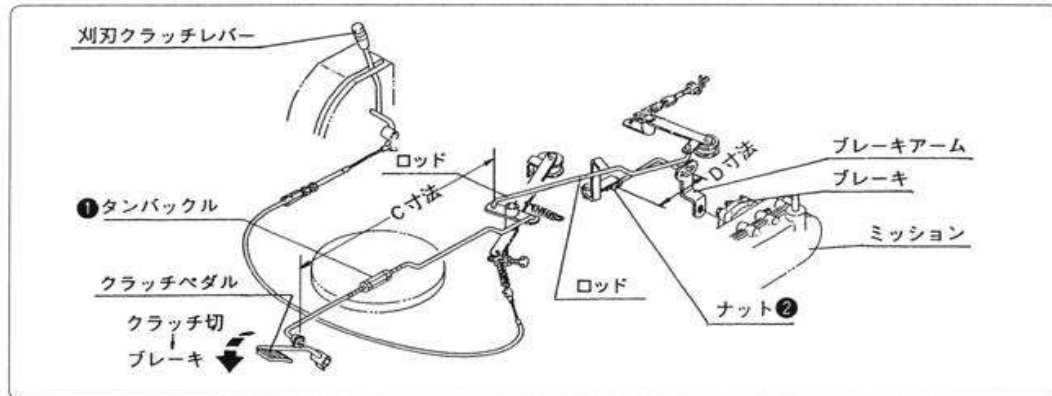
- ① 割りピンを抜いてください。
- ② Uナット（M12）を外してください。
- ③ 新しい刈刃を交換してください。
- ④ Uナットを確実に締付けてください。この時刈刃が軽く動くことを確認してください。
- ⑤ 割りピンを取付けてください。



警告 新しい刈刃に交換の際は※印部品も摩耗致しますので安全の為、同時に交換してください。

8 主要部の調整

図-15



5. クラッチの調整（図-15）

クラッチペダルを踏んでクラッチの切れが早すぎたり遅すぎたり又、走行ブレーキの効きが悪い時に調整してください。

- ① タイミング調節タンバックル①を緩め、ロッド長さC寸法を短くすると早く切れます。
- ② ロッド長さC寸法を長くすると、クラッチは遅く切れます。

6. 走行ブレーキの調整（図-15）

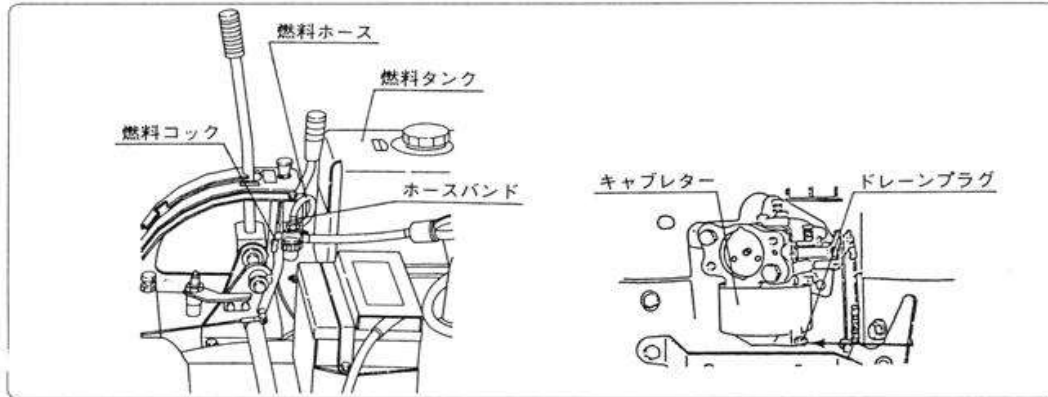
- ① ブレーキアームに接続されていますブレーキロッドの②ナットを緩め、ロッド長さD寸法を長くすると早く効き、短くすると遅く効きます。
- ② クラッチペダルを踏み、クラッチが切れると同時にブレーキが効き始めるようにしてください。



注 意：クラッチが切れてブレーキが効き始めてないと傾斜地等で危険ですから、調整には注意が必要です。

9 格納のしかた

図-16



長時間運転しない時や長時間保存する場合は次の手入れをおこなってください。

1. 本機の清掃、洗浄、注油（18頁参照）

泥、ゴミ塵などは水洗し、水洗後はよく水分をふきとり各回転部、摺動部にたっぷりと油をさしてください。

2. オイル交換（19頁、20頁参照）

オイル交換は作業が終わって潤滑油の暖いうちにおこないますとたいへん楽ですし、またきれいに排油する事ができます。

3. ガソリンの抜き取り（図-16）



危険：燃料を抜く時には火気厳禁、風通しの良い所でおこなってください。抜いたガソリンは安全な所に保管してください。

①燃料タンク内のガソリン抜き取り

ホースバンドを緩め、燃料コック側のホースを外して別容器に燃料を受けてください。

②キャブレター内の燃料抜き取り

キャブレターのドレインプラグを緩め、燃料を容器に受けてください。完全にガソリンが抜けたら元に戻してください。

③燃料コック内のガソリン抜き取り

燃料コックのカップを緩め、容器に受けてください。完全にガソリンが抜けたら元に戻してください。

10 特 長

1. コンパクト低重心で安定性が優れています。
2. デフミッションでデフロック装置も備えています。
3. 走行クラッチと走行ブレーキは連動式です。ペダル踏込みでクラッチが切れ、更に踏込みますとブレーキが掛かります。ロックレバーをセットすれば駐車ブレーキも兼用できます。
4. クラッチペダルをいっぱい踏込まないと、始動できないようにセフティースイッチ機能を備えています。刈刃クラッチが「入」の状態ですと座席を離れますとエンジンが停止できる2重安全装置を備えています。
5. 刈刃クラッチと刈刃ブレーキは連動式で、クラッチを切るとブレーキが作動して刈刃を停止する事ができます。
6. 丸ハンドルでラック&ピニオン式ですからハンドル操作が楽です。また、ハンドル高さの調節もできます。
7. 作業幅は850mm, 950mmと広く、刈刃はフリーになっております。
8. 作業幅は1350mmとワイドになっており、樹の根元や枝下作業も出来ます。また、補助ローター部は圃場の凸凹に追従できる特殊装置を備えています。(MPM-1350)
9. 補助ローター部の折りたたみはクランプレバーの締付けのみでおこない、ベルト等の調整は不要です。折りたたみますと軽自動車への積降しもできます。(MPM-1350)
10. エンジンはOHV2気筒高出力がソリンでセルスタータ方式ですから始動が容易で余裕のある作業ができます。

11 仕 様

名 称 型 式	マメトラMPM-850	マメトラMPM-950	マメトラMPM-1350	
区 分	MPM-850	MPM-950	MPM-1350	
機 体 寸 法	全 長	1740mm	1740mm	1740mm
	全 幅	950mm	1000mm	1470mm
	全 高	880mm	880mm	880mm
	重 量	245kg	255kg	270kg
	銘 柄 型 式 名	ブリグス&ストラトン	ブリグス&ストラトン	ブリグス&ストラトン
搭 載 エ ン ジ ン	種 類	空冷2気筒OHV ガソリンエンジン	空冷2気筒OHV ガソリンエンジン	空冷2気筒OHV ガソリンエンジン
	最 大 出 力	14ps/3600rpm	16ps/3600rpm	16ps/3600rpm
	燃 料 タ ン ク 容 量	7.0ℓ	7.0ℓ	7.0ℓ
	排 気 量	480cc	480cc	480cc
	バ ッ テ リ ー	12V・28A	12V・28A	12V・28A
	始 動 方 式	セルスタータ式 リコイルスタータ可	セルスタータ式 リコイルスタータ可	セルスタータ式 リコイルスタータ可
作 業 幅 / 刈 高 さ	850mm/25~65mm	950mm/25~65mm	1350mm/25~65mm	
刈 刃	フリーナイフ式	フリーナイフ式	フリーナイフ式	
変 速	前進4段 後進1段 デフミッション	前進4段 後進1段 デフミッション	前進4段 後進1段 デフミッション	
速 度	1 速	1.9km/h	1.9km/h	1.9km/h
	2 速	3.0km/h	3.0km/h	3.0km/h
	3 速	5.0km/h	5.0km/h	5.0km/h
	4 速	7.7km/h	7.7km/h	7.7km/h
	後 速	2.2km/h	2.2km/h	2.2km/h
ベルト寸法	走行部	LB-31	LB-31	LB-31
	刈取部	LC-81	LC-77	LC-79
	補 助	-	-	LB-71
タ イ ヤ 寸 法	前輪 350-7 (φ350) 後輪 16-7.00-8 (φ400)	前輪 350-7 (φ350) 後輪 16-7.00-8 (φ400)	前輪 350-7 (φ350) 後輪 16-7.00-8 (φ400)	
軸 距	1235mm	1235mm	1235mm	
輪 距	前輪786mm 後輪720mm	前輪786mm 後輪720mm	前輪786mm 後輪720mm	
最 小 回 転 半 径	1800mm	1800mm	1800mm	
ブ レ ー キ 装 置	走行ブレーキ(駐車兼用) 刈刃ブレーキ	走行ブレーキ(駐車兼用) 刈刃ブレーキ	走行ブレーキ(駐車兼用) 刈刃ブレーキ	
ハ ン ド ル 方 式	丸ハンドルラック & ピニオン式	丸ハンドルラック & ピニオン式	丸ハンドルラック & ピニオン式	
ハ ン ド ル 調 節 方 式	ノブ締付調節高さ80mm	ノブ締付調節高さ80mm	ノブ締付調節高さ80mm	
能 率	20分~50分/10a	20分~40分/10a	20分~30分/10a	

エンジン



- ◆エンジンや作業機を修理・点検中に起こり得る偶然のエンジン始動を防ぐためにあらかじめスパークプラグを外すか、スパークプラグコートを外してください。また、12ボルトセルスタータ付エンジンの場合はバッテリーのマイナスターミナルを外してください。
- ◆冷却フィンやガバナ関連部品にゴミや草などの堆積物が付着しないよう、清掃してください。おこたった場合はエンジンの設定回転に影響します。
- ◆始動時のキックバック（ケッチン）の発生を防止し、手や腕をケガから守るためにスタータロープは一旦重くなるまでゆっくり引き、次に素早く引いてください。
- ◆エンジンを始動する前に以下の安全項目をよくお読みいただき、充分にご理解の上、エンジンを操作してください。また、エンジンの搭載作業機の取扱説明書もあわせてお読みください。



警告

- スパークプラグを外したまま、点火をチェックしないでください。
（承認されたテストをご使用ください）
- スパークプラグを外した状態でエンジンをクランクしないでください。
（ガソリンを吸い過ぎた場合はスロットル・レバーを「高速」として、エンジンが始動するまでクランクしてください）
- フライホイールを硬いものやハンマで叩かないでください。運転中に破損したり、飛散し周囲の人を損傷させることがあります。（純正工具を使用してください）
- マフラを外したままで、エンジンを運転しないでください。（定期的に点検し、破損したり洩れている場合は交換してください。また、ディフレクタが取り付けられている場合も定期的に点検し必要に応じ正しい部品と交換してください）
- マフラ周辺部に積もった草や葉、ゴミ等可燃の付着物をつけたままで運転しないでください。
- エンジンにスパークアレスタが装着されないまま、森の中、雑木林、草地など手入れされていない場所で運転しないでください。（スパークアレスタはオペレータによって正しく機能するよう手入れを行う必要があります）
- 熱くなっているマフラやシリンダ、冷却フィン等に手を触れないでください。ヤケドの恐れがあります。
- エアクリーナまたはエアクリーナカバーを外したままで運転しないでください。



警告：ガソリンは常に新しいものをお使いください。古いガソリンはキャブレター内部にガム質付着や洩れの原因となることがあります。燃料ラインをチェックして洩れやびび割れがないか調べ、必要に応じて新部品と交換してください。



注意：エンジン修理の際には、必ずブリグス&ストラトン純正部品をお使いください。純正部品をお使いいただくことにより、本来の出力が維持できます。純正以外の部品をお使いになった場合、故障や早期摩耗となる場合があります。

推奨オイル及び燃料

オイル



注意：エンジン出荷時にオイルは入っておりません。

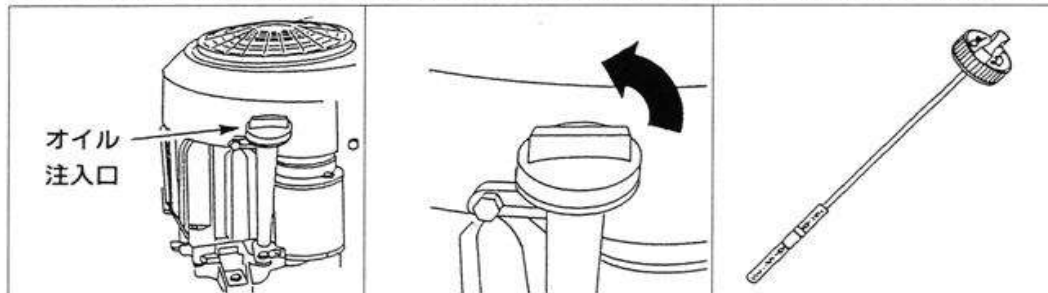
燃料レベル

タンク給油の際、入れすぎないこと。オーバーフローしないよう上部を若干残すようにしてください。

オイル容量はオイルフィルタが装着されている場合は約1.7ℓです。エンジンを始動させアイドル30秒程運転します。エンジンを停止し、30秒程待ちオイルレベルを点検してください。ディップスティックの「FULL」マークまであるか確認してください。

エンジン

エンジン始動前にオイルレベルを点検し、図に示すようにオイルを補充してください。



エンジンを水平にしてオイル注入口周辺を拭取る

ディップスティックを外し、きれいな布で拭く

ディップスティックを締込んでから外して点検する

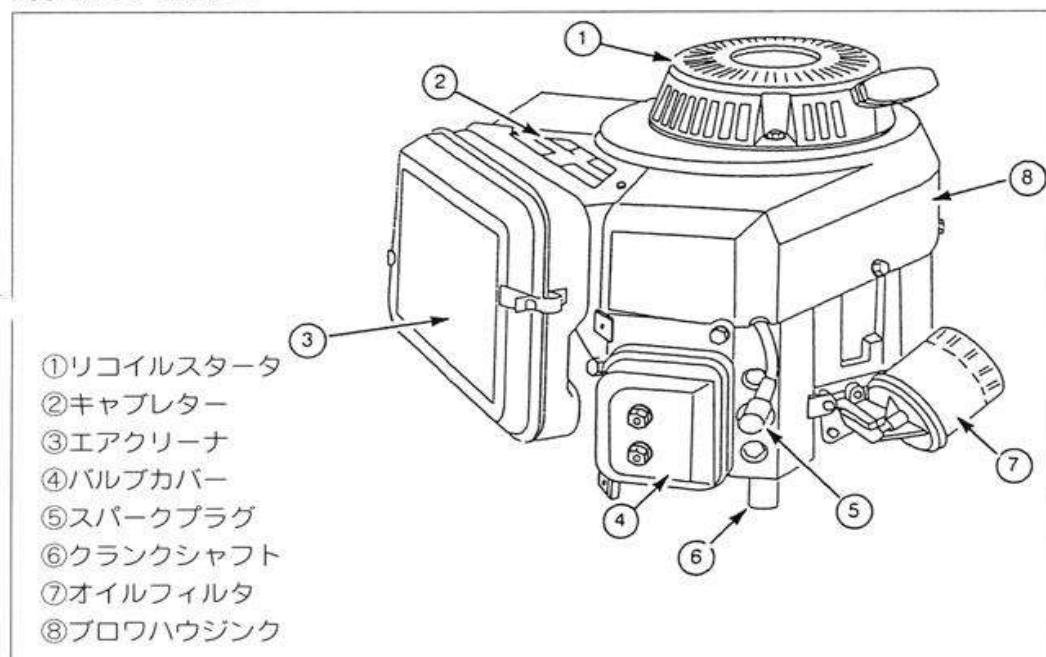


オイルレベルがFULLまであるか確認する

不足している場合はゆっくりと補充し、再点検

エンジン始動前には必ずディップスティックをしめる

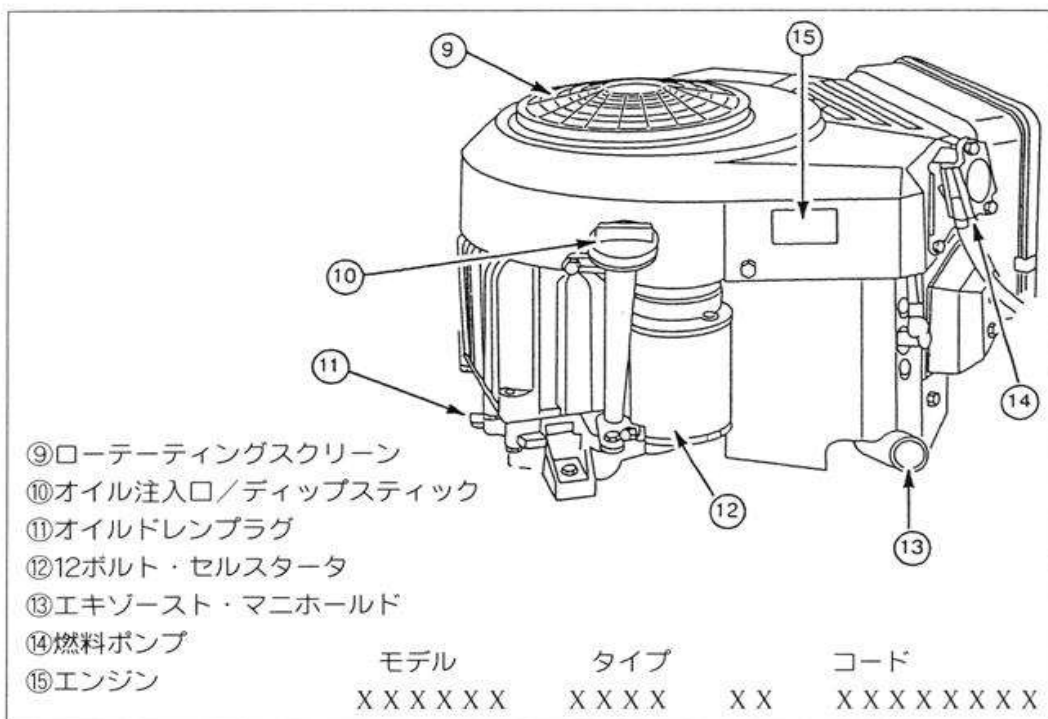
始動の前に



低温時の始動ヒント

1. 外気温に合わせたオイルを選定する。
2. 負荷が掛からないようにクラッチを切ります。
3. スピードコントロール・レバーを中間位置にします。
4. バッテリーを保温しておくことをお勧めします。
5. 保管した夏季用ガソリンを使用しないでください。
冬季用の新しいガソリンを使用してください。

エンジン



オイルプレッシャー・スイッチ（オプションとして装着されている場合）

エンジンにオイルプレッシャー・スイッチが取付けられている場合は、エンジンの油圧が0.2~0.4kg/cm²以上で警告装置が作動したり、エンジンが停止します。

（作業機の取扱説明書を参照してください）

エンジンオイルを補給してください。ディップスティックの「FULL」マークまで補給してください。

始動と停止

エンジン始動



警告： 芝刈機のブレードや作業機側の回転部には手や体が触れないように注意してください。

アクセル

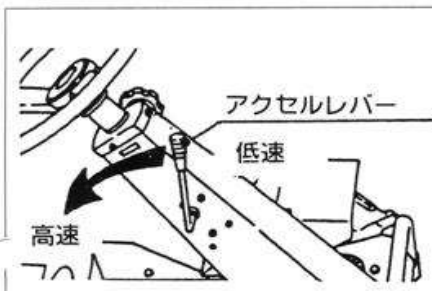
アクセルレバーを [中間] または [高速] 位置とします。

チョーク

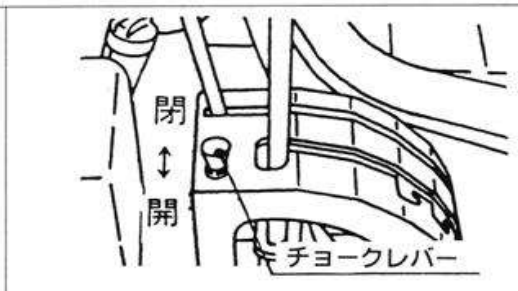
チョークレバーを [閉] 位置とします。



注意： チョークノブを引いて、チョークバルブが確実に閉まっていることが必要です。



アクセルレバー

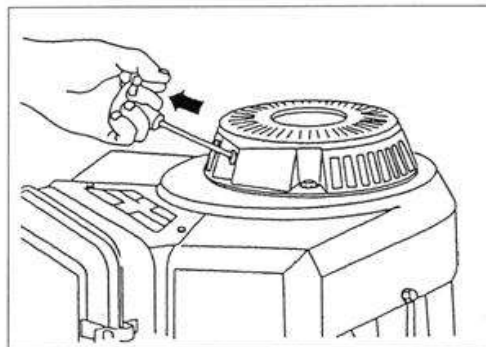


チョークレバー

リコイルスタータ



注意
スタータグリップを図のように握り、ゆっくりとスタータが噛み合うまで引きます。次にコンプレッションを感じた位置から、勢いよく引っ張ればエンジンが始動します。



エンジン

セルスタータ

キーをON（運転）、START（始動）に回してください。繰り返す場合はチョークを開き、スロットルを〔高速〕とします。エンジンが始動したらスロットルを〔高速〕としてください。

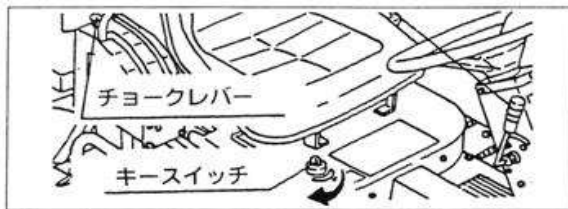


注 意：バッテリーはエンジン始動前に、作業機メーカーの推奨に基づき充電してください。

スタータモータのライフを伸ばすために、数秒の短い時間で作動させてください。もし一回で15秒以上回転させた場合は、少なくとも1分以上休ませてください。

エンジンをかけ損なった場合、一旦キースイッチをOFF〔停止〕にしてから再始動させてください。急いで再始動させた場合、スタータギヤを損傷することがあります。

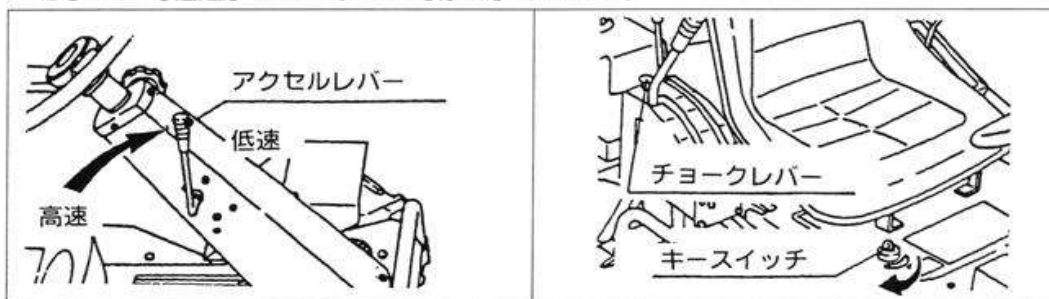
バッテリーを外したままで、エンジンを運転しないでください。



一般的なスタータスイッチ

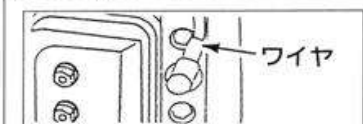
停 止

チョークを引いてエンジンを停止させないでください。バックファイヤが発生したりエンジンを損傷することがあります。作業機またエンジンのアクセルレバーをSLOW〔低速〕としてSTOP〔停止〕とします。



メンテナンス

不意な始動を防ぐために



注 意：エンジンや作業機の調整をする際には必ずスパークプラグコードもしくはバッテリーのマイナスターミナルを外してください。

オイル

通常のオイル点検

始動前または運転8時間毎に、毎日オイル点検をおこなってください。エンジンの維持のためにも確実なオイルレベルを保ってください。2ページのオイル点検を参照してください。

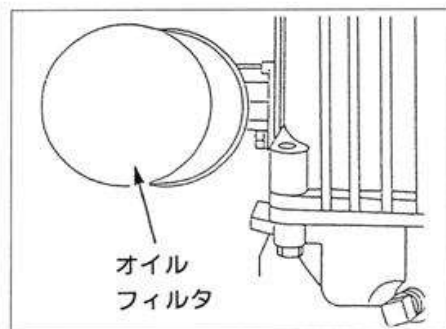
オイル交換（メンテナンススケジュール参照）

新しいエンジンは、最初の運転8時間後に第1回目のオイル交換をしてください。その後、軽い負荷での運転では50時間もしくはシーズン毎のいずれか早い時間に交換してください。負荷が過酷であったり、高温下での運転の場合は、運転25時間毎に交換してください。交換はエンジンが暖まっているうちにオイルドレンプラグを外し、オイルを抜きます。抜き終わったらドレンプラグを取付け、ディップスティックを外し、新しい適性粘度のオイル（32ページの推奨オイルチャート参照）を注入します。ディップスティックを正しく取付けます。エンジンを始動し、約30秒程運転します。エンジンを停止し、さらに30秒後待ちオイルレベルを再度点検します。不足していれば、ディップスティックの「FULL」マークまで補充してください。

オイルフィルタの交換

（メンテナンススケジュール参照）

オイルフィルタは運転100時間毎もしくはシーズン毎のいずれか早い時期に交換してください。新しいオイルフィルタのガスケットにきれいなオイルを塗布して取付けてください。手でフィルタアダプタに当たるまでフィルタをねじ込みます。さらに1/2から3/4回転を工具で締め込みます。エンジンを始動し、アイドリング運転してオイル漏れが無いか調べます。エンジンを止め、オイルレベルを再度チェックし、必要であれば補給します。



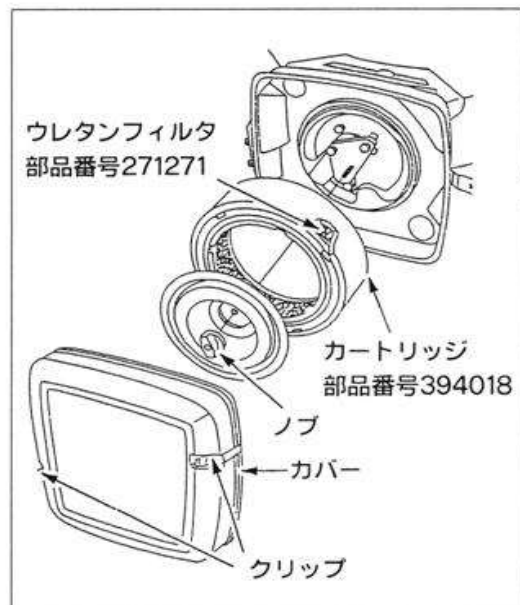
エンジン

エアクリーナ



注意：メンテナンス・スケジュールに従ってお手入れしてください。

1. エアクリーナカバーの両サイドのクリップを外し、カバーを外します。
2. プリクリーナをカートリッジから引抜きます。プリクリーナはせっけん水の中で洗い、乾いた布で水分を取ります。エンジンオイルを若干塗布し、全体にいきわたらせます。余分なオイルは乾いた布で拭取ります。汚れが著しい場合や損傷している場合は交換します。
3. ノブを外し、カートリッジプレートを外します。キャブレター内部にゴミが入らないよう注意しながらカートリッジを外します。



カートリッジは平らな床で軽く叩いてホコリを落とします。オイルは絶対含ませないこと。汚れが著しい場合や損傷している場合は交換する。



注意：化学洗剤や灯油等でカートリッジを洗浄しないでください。高圧エアをかけての清掃はしないでください。これらはカートリッジの性能劣化となります。

4. カートリッジ、カートリッジプレート、ノブを取付けます。
5. プリクリーナをカートリッジにセットします。
6. カバーを置き、両サイドのクリップをボディにセットします。

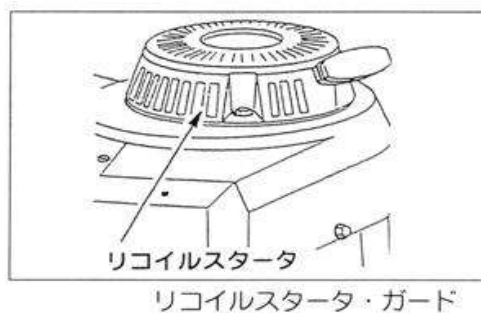
42ページのメンテナンス・スケジュールを参照してください。次の運転時間と期間の表示については、いずれか早い時期におこなってください。必要に応じて頻繁にサービスをおこなってください。

メンテナンス

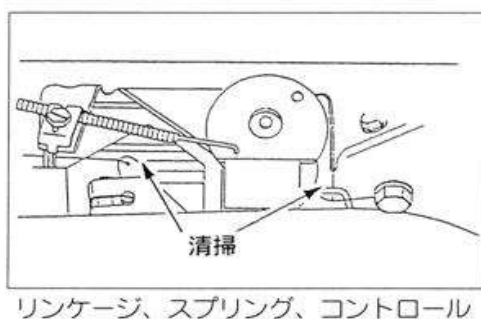
エンジンの清掃

泥や汚れを布またはブラシで拭取ります。高圧洗浄後による洗浄は燃料システムに混入する恐れがあり、お勧めしません。

リコイルスタータ・ガードに付着した草やくず、泥は毎日取除きます。(必要に応じて頻繁に) これにより、オーバーヒートによる損傷を防ぐことができます。



スムーズな操作のために、常にガバナーコントロールやリンケージを清掃し、ゴミの無いようにしてください。

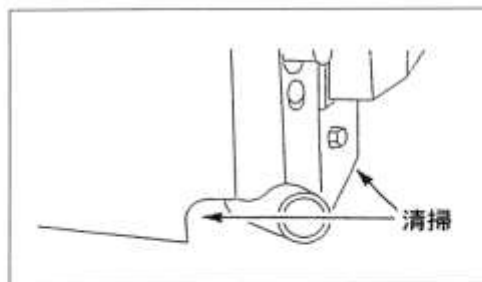


エンジン

メンテナンス



注意：毎日もしくはそれ以上の頻度でエンジン始動前にマフラ周辺部のホコリ・ゴミ・燃えやすい堆積物を取除いてください。
マフラにスパークアレスタ・スクリーンが取付けられている場合は、取外して点検・清掃をしてください。損傷していればラグ交換してください。



マフラ周辺
スパークアレスタスクリーン

インライン燃料フィルタはシーズン毎、もしくは必要に応じて早めに交換してください。販売店もしくは、ブリグス ストラトンのサービスセンターにお問い合わせください。

燃料フィルタ



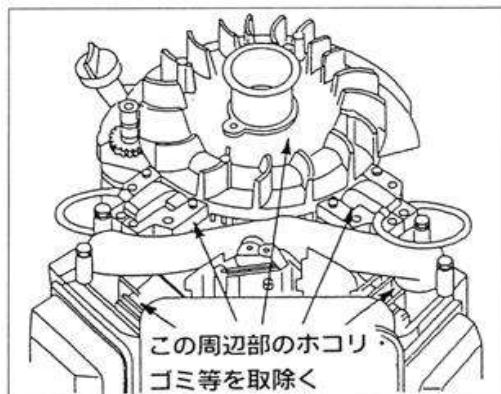
部品番号493629
(燃料ポンプ付)

燃料フィルタ



注意：燃料フィルタ交換前に燃料タンクを空にするか燃料コックを閉めてください。

長時間のご使用により、冷却フィンの中にホコリや異物が詰まることがあります。特に芝刈機では背の高い草や牧草を刈った後に、草が堆積することがあります。この場合オーバーヒートを起こし、損傷する場合があります。プロアハウジングを外し、清掃をしてください。必要に応じて早めにおこなってください。



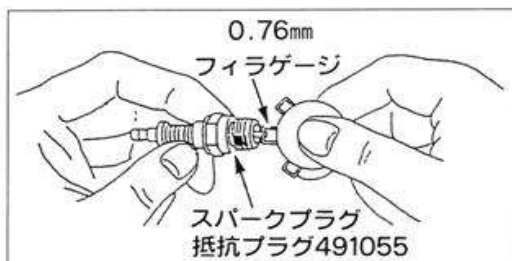
冷却システム

スパークプラグを外します



注 意：部品番号19368のスパークテストを用いてスパークを点検してください。

スパークプラグにワイターミナルが充分に取付けられていないとスパークが発生しないことがあります。
ターミナルをしっかり取付けてください。



スパークプラグ



注 意：一部地域では法律によっては電波障害防止のために、抵抗入りスパークプラグの使用が義務付けられていることがあります。この場合スパークプラグする際には必ず同じ品番のスパークプラグをご使用ください。

42ページのメンテナンス・スケジュールを参照してください。次の運転時間と期間の表示については、いずれか早い時期におこなってください。必要に応じて頻繁にサービスをおこなってください。

エンジン

メンテナンス・スケジュール

以下の表の運転時間と期間の表示については、いずれか早い時期におこなってください。
必要に応じて下表の時間にとらわれず、早めにおこなってください。

メンテナンス 項目	運転8時間毎 もしくは毎日	運転25時間毎 もしくは毎週	運転50時間毎 もしくは毎月	運転100時間 もしくはシーズン毎	毎年
オイルレベルチェック	●				
オイル交換◆			● 注1		
オイルフィルタ交換◆				●	
エアクリーナ・プリクリーナのサービス		● 注2			
エアクリーナ・カートリッジのサービス				● 注2	
スパークアレスタ点検(オプション)					
冷却システム清掃				● 注2	
スパークプラグ交換					●
インライン燃料フィルタ交換					●
バルブクリアランス点検					●

◆最初の運転8時間で第1回目の交換を、以降は50時間毎もしくはシーズン毎に交換してください。

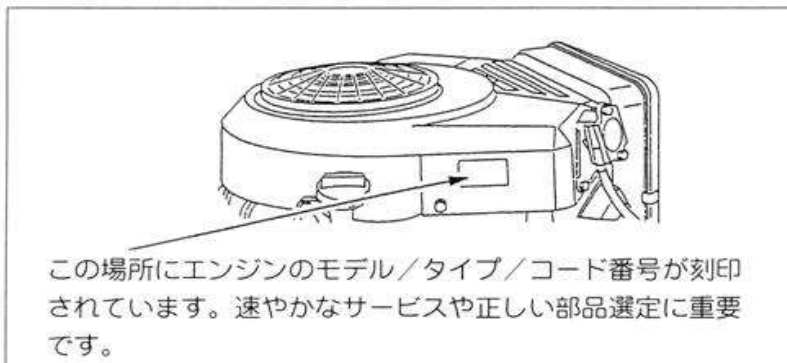
注1：重負荷や、高温度の条件下での運転の場合、運転25時間毎に交換してください。

注2：ホコリがひどい条件下での運転では、より頻繁におこなってください。

ブリグス&ストラトン承認サービスディーラーには純正部品を在庫しております。

純正以外の部品を使用したばあい、保証の対象外となります。

代表的な純正B & Sエンジンパーツ	
	B & S部品番号
エアクリーナ・カートリッジ	394018
エアクリーナ・ブリクリーナ	271271
抵抗入りスパークプラグ(チャンピオンRC12YC)	491055
スパークプラグエルボ	805529
スパークプラグレンチ	19374
スパークテスト	19368
オイルフィルタ(ショートタイプ)	492932
オイルフィルタ(ロングタイプ)	491056
燃料フィルタ(燃料ポンプ付)	493629
燃料フィルタ(燃料ポンプなし)	298090



エンジン

配線図

